

7月定例記者会見の概要

1 日 時 令和5年7月6日（木）11時00分～12時00分

2 場 所 本庁舎2階 正庁

3 出席者 <報道機関>

- ① 河北新報社 南相馬支局（南相馬記者クラブ会員）
- ② 朝日新聞社 南相馬支局（南相馬記者クラブ会員）
- ③ 読売新聞社 南相馬通信部（南相馬記者クラブ会員）
- ④ 福島民友新聞社 相双支社（南相馬記者クラブ会員）
- ⑤ 福島民報社 南相馬支社（南相馬記者クラブ会員）

計 5 社

< 市側 >

・市長・総務部長

(テレビ会議)

- ・新田副市長・小高区役所長
- ・鹿島区役所長・復興企画部長・復興企画部政策担当理事
- ・市民生活部長・健康福祉部長・こども未来部長
- ・商工観光部長・商工観光部企業立地担当理事
- ・農林水産部長・農林水産部整備担当理事
- ・建設部長・総合病院事務部長・教育委員会事務局長

計 17 人

(司会進行) 秘書課長

(会議記録) 秘書課広報広聴係

【市政報告】

はじめに、市議会定例会についてです。

6月14日に開会した第3回南相馬市議会定例会は、7月3日に閉会しました。

この議会では、「ともによりそい・はぐくむ南相馬市人権条例」の制定や、国の「物価高克服に向けた追加策」に伴う補正予算など、議案16件について議決を賜りました。

次に、DX推進ビジョンの策定についてです。

市では、デジタル社会の実現に向け、行政DXに取り組む基本的な考え方や進め方、目指す方向性を「南相馬市DX推進ビジョン」として整理しました。

本市のビジョンは、震災以降、復興関連業務の増加が職員の負担となっていることなどを踏まえ、デジタル技術の活用による変革に加え、業務ルールや手順の見直し、役割分担や協力体制の構築といったアナログ的な変革も重視しているのが特徴です。

市民の生活をより良いものにすることを目指すためにも、まずは、市役所職員の業務量の適正化を目指して取り組んでまいります。

次に、福島国際研究教育機構（F－R E I）と本市との座談会についてです。

7月5日にF－R E I座談会が市内で開催されました。座談会は、F－R E Iが各地域との連携を進める手段として開催しており、いわき市に次いで2回目の開催です。

当日は、現地視察のほか、F－R E Iの取り組みに対する期待や連携の在り方などについて、市内の農業法人や企業、経済・産業団体との意見交換が行われました。

市からは、地域との緊密な連携が特に重要であり、地域との関わりを念頭に置いた取り組みを行うよう申し入れをしました。今後、さらなる関係強化に努め、F－R E I設立の効果が最大となるよう、しっかりと対応してまいります。

続いて今後の主な話題について触れたいと思います。

はじめに、小高園芸団地の引渡式についてです。

市では、キュウリやスナップエンドウ、水稻育苗などの生産施設と、野菜の集出荷複合施設などを供えた「小高園芸団地」の整備を進めてまいりました。

このたび、7月12日に、市から管理運営者に決まったふくしま未来農業協同組合へ、小高園芸団地の引渡式を行います。

集出荷複合施設と鉄骨ハウスは令和3年度から供用を開始しておりましたが、パイプハウス38棟が竣工したことから、無事全面供用を開始できる運びとなりました。小高園芸団地の整備によって、営農再開と地域住民の帰還が促進されることを期待します。

次に、奥州相馬氏ゆかりの地バスツアーについてです。

市では今年度、奥州相馬氏の下向700年に合わせて、ゆかりの文化遺産を巡るバスツアーを企画しています。

前回の記者会見で団体向けバスツアーをご案内しましたが、6月30日の申込期限までに29団体、延べ780名の方にお申し込みいただくなど大変好評をいただいております。

7月14日からは個人向けの申し込みの受付を開始いたします。対象は市内在住あるいは、在勤の方です。相馬野馬追の歴史にちなんだ昼食などもご用意しますので、この機会にぜひお申し込みください。

次に、北泉海水浴場の海開きについてです。

7月15日に北泉海水浴場で海開きが行われます。また、海開きに先立ち、明日7日には地元の行政区や企業の皆様にもご参加いただき、ビーチクリーンを行う予定です。万全の体制で利用客の皆様をお迎えしたいと思います。

夏の思い出作りにぜひ北泉海水浴場をご利用ください。

次に、ペンドルトン派遣団についてです。

姉妹都市であるアメリカ合衆国オレゴン州ペンドルトン市の学生と関係者が、7月19日から30日まで本市などを訪問します。新型コロナウイルス感染症の影響で2020年から往來を見合わせておりましたが、4年ぶりに再開いたします。

滞在中は相馬野馬追などの伝統文化の体験や、市民との交流を行う予定です。

また、本市からペンドルトン市へ向かう派遣団も4年ぶりに再開します。8月に市内の高校生6人が出発する予定です。詳細が決まり次第、お知らせいたします。

続いて、貝塚観察館についてです。

市では、国史跡の浦尻貝塚を史跡公園として整備を進めてきました。その一部である縄文時代の貝塚を展示する「貝塚観察館」を、7月22日から先行公開します。5000年前の貝塚を、断面と平面を組み合わせた立体的な展示手法で展示します。この展示手法は全国でも珍しい手法です。オープンイベントや公開記念講座も開催しますので、ぜひお越しください。

次に、相馬野馬追についてです。

7月に入り、いよいよ相馬野馬追の開催日が近づいてまいりました。本年の出場騎馬数は本日7月6日時点で、昨年よりも14騎多い368騎となっております。

市内外から足を運ばれる多くの方々に、時代絵巻を思わせる騎馬武者の勇壮な姿を観ていただけることを大変嬉しく思います。地域の繁栄と安寧を願う相馬野馬追が、盛大に開催されるよう準備を進めてまいります。

【質疑応答】

質問1:

国際原子力機関（IAEA）のグロッシ事務局長が来日し、岸田首相に処理水に関する包括報告書を手渡しました。市長の受け止めをお聞かせください。

回答1：市長

これまで国に対して、しっかりと国民への説明を行ってほしいと再三申し上げてまいりました。引き続き緊張感を持って、国の責任で説明していただけるよう対応をお願いしたいと思っております。

質問2:

政府では、福島第一原発の処理水の海洋放出を、夏頃までに開始する方針を決めています。放出の時期などについて、どうあるべきかという考えはありますか。

回答2：市長

これまでも一貫して、安全・安心に関する評価や、国民への説明について、国の責任でしっかり行っていただきたいと申し上げてきました。放出時期等については国としての総合的な考えがあつて決定したものだと思っております。市としては、海水浴等がしっかり開催できるよう対応してまいりたいと考えています。

質問3:

相馬野馬追の出場騎馬数が増加している要因を教えてください。また例年、減少

傾向にあったことが心配されていましたが、今年度は増加したことを受け、減少に歯止めがかかったと捉えていますか。

回答 3：市長

五郷それぞれ出場騎馬数が増加したため一安心ですが、昨年が例年に比べてかなり少なかったため、減少に歯止めがかかったとは考えていません。今年は通常時の開催に近付いたことが、増加した一番の要因と捉えています。

14騎増加したことを嬉しく思いますが、まだまだ増やしてまいりたいと考えていますので、初陣の方を増やすとともに、一度出場した方が今後も継続して参加できる環境づくりに努めてまいります。

質問 4：

7月12日で小高区の避難指示解除から7年が経過します。市長の考えや今後の展望などをお聞かせください。

回答 4：市長

東日本大震災と福島第一原発事故の発生後、市ではそれぞれの時期に求められる対策など様々な取り組みを行ってきました。

避難指示の解除までは、安心して暮らせる環境づくりに必要な対策を行いました。解除後は医療環境や復興拠点、スーパーなどの整備といった「暮らすために必要な環境」を補強してきました。

現在、小高区内の人口は3,850人程度で、ほぼ横ばいの状態が続いています。亡くなる方が年間100人程度おり、一方で生まれた子どもや小高区に帰還する方、移住する方を合わせるとほとんど変動がない状態か、微増・微減の状態が続いています。

今後は安心して暮らせる環境づくりに加えて、産業用地の造成などによる^{なりわい}生業の創出や、子育て・教育環境の充実に向けた取り組みになお一層、取り組んでいかなければならないと考えています。

以上